不屈に闘うぞ！
この暖いカンパと激励

三池のたたかいは会社の人間性を無視した卑劣な差別とのたたかいつづけた今年も終ろうとしています。三池を守る会をはじめ全国の仲間からのカンパや激励は、一日としてとだえることなくつづいて、われわれに大きな力と勝利への確信を与えていますが、さいきん組合にカンパとともに届けられたこれらの手紙の中からいくつかを紹介します

前途を信ずる

川崎市宮河原二一八六　柏俣　操

十二月半ばとなりとうとう三池のみなさまにとつても私にとつても、忘れることのできない多くの教訓と思い出のある一九六一年という年も、残り少くなつてしまいました。

一昨日は旧軍人、右翼の連中のクーデター計画が発覚し、戦前の暗い時代を思い出させるものがあります。浅沼、嶋中事件につづくこの出来ごとに大きなショックをうけながらも、甘い見方なのかも知れませんが、いつかは必らずこの反動の波は茶番劇と終わるだろうし、終わらせることができるという気がしてなりません。

おそらく戦前なら、とつくにつぶれでしまつただろう（失礼ない方ですが）三池の組合が、敵の激しい攻撃のなかで、依然としてねばり強く残りたたかつていることは、私にとつて大きな前途を照らすかがり火だと信じます。

これからもながい苦しい道を歩むであろう皆さまとともにがんばつて進んで行きたいと思います。

ご健闘を祈ります。

十二月十五日

【注】柏俣さんは闘争中から毎月かかさず私たちに暖いカンパを送つて激励をつづけておられる方です。

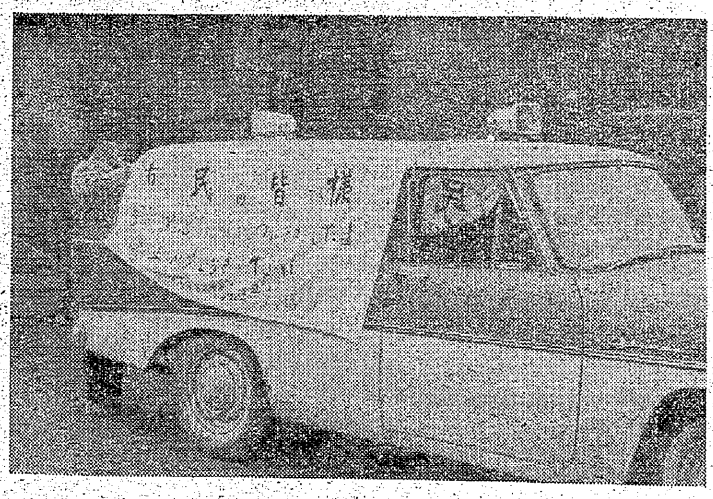
必ず勝利する

愛知県春日井市王子町二丁目字鍛冶屋組内　春日井三池を守る会

十一月、十二月分カンパ金）二〇〇〇円）をお送りします。

右翼クーデターの陰謀がバクロされ、私たち民主勢力はいまこそ民主主義を守るため大きく結集する時だと思います。

三池労組に加えられている弾圧にたいして、あくまでたたかつて



磐炭労事務所前で77銀行従組の街頭宣伝班

行くことが私たち守る会で決定され、会をつづけて行くことにしました。

米日反動勢力は形の上では大きく見えますが、必らず私たちは勝利します。

統一戦線をつよめるため三池の火をうけつぐために握手！

屈せず闘いを

大阪市北区牛丸町六五　日本国民救援会大阪支部

拝啓　そのご無沙汰いたしております。本年もあとわずかになりました。何かと大変なことと思います。

実は大阪の〝ココの会〟から三池のたたかいを支援するカンパ一万円をよせられました。〝ココの会〟というのは大阪の弁護士の奥さんたちのサークルの会です。低賃金の中で会社のひどい差別に屈せずたたかつている三池へということでカンパがきまつたようです

ではご健闘お祈りします。

十二月十九日

がんばって下さい

三鷹市牟礼一〇三九　小崎　光子

三池のみなさまお元気ですね。きょうボーナスが入りましたので二、〇〇〇円カンパいたします。お受け取り下さい。

新聞で会社側が首切り通告をしたというのをみて、胸がいたくなりました。私は学校に勤めておりますが市役所の職員なので、勤評によるボーナスの格差はありますし、去年合理化反対闘争をやつているわけですが、こんどのボーナスもどうにか人なみにはもらいました。

「公務員として適格だというわけだ、今の勤め方でいいというわけだ」と家へ帰つて大笑いをしました。

経済的に私などの想像できぬ苦しい状態におられるとは思いますが、団結によつて明るい新年を迎えて下さることを心からお祈りいたします。

十二月十八日

【編集部から】これらの暖い激励に私たちも手紙を送り交流をつづけましょう。

磐炭田といえばピーンとくるのが三つほどある。一つは常磐炭鉱節、二つは全労系の強いヤマ、三つは武藤武雄（元炭労会長）である。

平市にある磐炭労に、今後の行動方針の打ち合わせや各山の実体のアウトラインを頭に入れるため訪れた。

菊池委員長は明朗活達の士で、十年の知己のごとく常磐の実情を息つくひまもないくらいにしやべりまくつた。とくに東北弁は親しみやすく、暖かみのある言葉で、ひき入れられるように聞き入つた

力強い炭労の組織

「隣は全労系の全炭鉱本部です。その隣の小部屋を武藤が使つています。恐らく日本中にもこのような事務所はないでしょう。隣にいるからといつてケンカをすることもありません。むしろ相手の方を無視しています。数こそ全炭鉱が一万三千位で炭労が三千位の勢力分野ですが、われわれには炭労十七万がバンとして見守つていますからね。われわれの組合は中小でもとくに小が多いので、炭労の組織は絶対ですよ。彼らもその点はうすうす認めているようです」

ドアが開いて事務局長の今井さんが入つてきた。この人も大牟田でよく見かけたにこやかな顔である。

「三池から来ました。よろしく」

「いやあ三池ですか。駅に迎えは来たでしょうね。こちらは寒いでしょう……」

どつぎつぎと話かけられた。

会社側候補が敗退

再び委員長はつづけた。

「常磐炭鉱は昔と全く変わつています。本年八月の改選では組合長、副組合長、書記長は組合側で独占してしまいました。武藤直系会社側推薦候補は三分の一もとることが出来ず敗退しました。面白いことに組合側候補のスロトガンが、〝逐転闘争を炭労と共に闘いとろう〟ということで組合員の信任を得たことです。事実今までに全炭鉱系で炭労の政転ビラをはつてくれたのは、この常磐炭鉱ぐらいではないでしょうか。さらに北海道常磐の行進団が通過するときは湯茶の接待を引受けて注視を浴びたのは事実です。また古河好間炭鉱（炭労）の十五周年組合祭に、執行部は出席して堂々と炭労と共闘の演説をしているなど、数えればきりがないくらいです。とくに炭労新聞をひじょうに欲しがつていることです。下部組合員の中に炭労がわれわれの本当の味方だということが理解されてきています。今までは会社やご用組合の発行する機関紙いがいは見ることが出来ませんでした。だが、だんだんわれわれの方と接触が多くなるにつれて、これではいけないということが分つてきたのです。例えば現実手当にしても炭労が三万円とれば、それ以上出るのですが、配分が問題です。炭労の場合は獲得額やハネ返りが即配分に結びついていますが、全炭鉱は別です。有資格者制度があり、坑外就業日数、坑内就業日数の規定があつて、その基準に達しなければならない。そしてその日数は全就業日満勤程度のものでなければならないし、公私傷その他の欠勤者は該当しないようになつています。つぎに保発係員とか事務管理者などは特別に炭労より上回つた配分をするので、一般の者は炭労より下回るわけです。このような矛盾が、私たちが彼らに炭労の事情を知らせることとか、炭労新聞を見せるとか、さいきんでは三池のオルグがきた場合には、彼らの活動家と交流することが大きな力になつてきています。時間があつたら交流の機会をつくりたかつたのですが、日程の都合で出来ず残念です」

まことに残念そうでした。

われわれもこのように、全炭鉱の常磐が変化していつた特別的なものをつかむためにも本当に交流したかつたと、心を残しつつ第一の予定地である古河好間労組に向つた。

常磐オルグ報告（1）
変ぼうする常磐（労全）
炭労共闘を叫ぶ組合員

してしまいました。武藤直系会社側推薦候補は三分の一もとることが出来ず敗退しました。面白いことに組合側候補のスロトガンが、〝逐転闘争を炭労と共に闘いとろう〟ということで組合員の信任を得たことです。事実今までに全炭鉱系で炭労の政転ビラをはつてくれたのは、この常磐炭鉱ぐらいではないでしょうか。さらに北海道常磐の行進団が通過するときは湯茶の接待を引受けて注視を浴びたのは事実です。また古河好間炭鉱

大蔵省で警察が妨害
第三次上京団元気に活躍

炭労の第三次政転上京オルグ団（三池から三〇名）は十五日に東京に結集して、十六日から行動を開始したが、上京オルグの活動がつぎのように伝わつてきた。

× × ×

第二次オルグ団活動当時の寒さはなく、今日このごろの東京はいがいに暖かいとみんな元気である。

十八日都内パレードをおこなつたが、都民の関心も深くいろいろ声援を送つてくれる。

それから東京芸術座の三池闘争の記録〝地底から〟を観劇した。あのはげしかつた三池の闘いの再現に、みんなかたずをのんで見守る。そして、敵への怒りを再び燃やしこれからの闘いへの暖いをあらたにする。

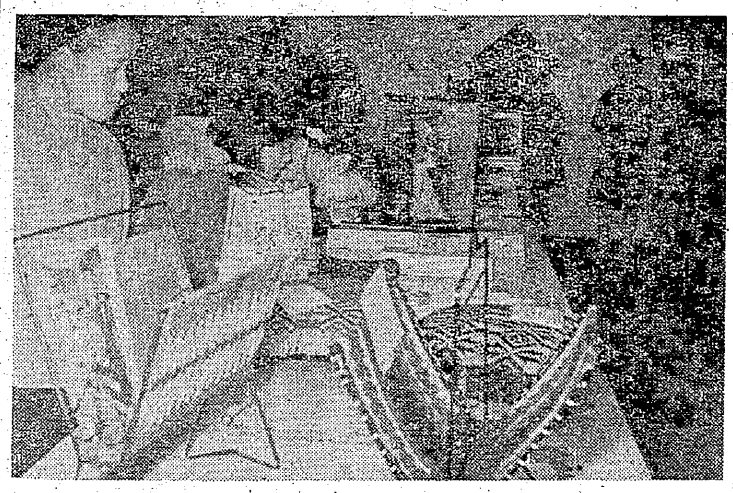
つぎに労働省と大蔵省へ陳情にでむいたが、大蔵省は警察がとりかこみ一歩も中に入れないで、警察権力をむきだしの威圧を加えた。そのため陳情団は各隊ごとに分かれて大蔵省のまわりをデモ、赤旗を立てて要求貫徹の気勢を上げて引きあげた。

つぎに労働省にゆき面会申入れのため座りこみ労働次官と面会した労働省は、昭和三十七年度の炭鉱合理化方針は変更することはできないことを主張したが、こんどは調査委員会をつくり大蔵、労働、通産、各省統一して対策をたてることを約束した。

陳情団は、十分な離職者対策を講ずること、それにはとくに三池離職者の不完全就職をつき、完全な生活と住宅の保障のある就職あつせんと、炭鉱労働者の最低賃金制（二二、〇〇〇円）の確立を要求これは最優審議委員会で検討、明らかにすると答えた。

陳情団は、十分な離職者対策を講ずること、それにはとくに三池離職者の不完全就職をつき、完全な生活と住宅の保障のある就職あつせんと、炭鉱労働者の最低賃金制

失対のワクの拡大については、三十七年度予算の中から労働省として別ワクでとれたので、考慮することを約束した。あすもまた陳情行動をつづける。



手芸展とバザー
本所婦人部延命会館で

本所支部婦人部では十二月十七日午前九時から延命会館で手芸展とバザーをひらいた。

婦人部ではことしの八月から手芸の講師を呼んで、毎週一回（水曜日）午後四時から八時まで講習会をひらき、約三十名が集まり研究をつづけていたものである。

一応各種の編み方もマスターできたので手芸展をひらこうということになり実現したわけである。

この日おりあしく雨となり組合員家族の出足が心配されたが、開場してみたら雨のなかにもかかわらず、組合員や家族、また来山していた九炭労さん下のオルグがつぎつぎと会場に向い、二階の展示場はゴツタがえしの観を呈した。

出品点数はとくに三川支部からの賛助出点三点もあつて、七十余点。テーブルクロスをはじめショール、のれん、ふくさ、ハンドバツグ、ネクタイ、帽子、帯、鏡かけなど種々彩々で見事な作品がならび、講習をはじめてまだ四カ月とはとても思えない出来栄えで、会場につめかけた主婦たちも「上手だなあ、これなら商品として売り出してもはづかしくない」と賞賛していた。

また、手芸展示場には金魚愛好サークルからも見事な金魚を援助出品して、会場に越きをそえていた。婦人部では手芸展と同時にバザーも店びらきしたが、これはカンパとともに、バザーによつてさらに組合員・家族の交流をはかろうというねらいをもつていたものであるが、非常に好評で利用者も多くにぎこばれていた。

第五回世界労組大会から
厳しい世界の労働運動（第三信）
植民地や新興国の現情

毎日各国代表の報告があつています。九十四カ国参加していますが、一日十五名ぐらいしか発言できませんので大変なものです。

世界の労働運動の実情について私も相当認識不足の点があつたことを大会に出席して痛感いたしました。とくに植民地や新興独立国の労働運動は、弾圧と迫害の連続です。

しかし、労働者は本当の独立・自由を求めてたたかつています。ストライキをしたというだけで、組合幹所をブタ箱にぶちこんだり手や足をナマのまま切断する拷問をやめろという闘争、また前世紀的なドレイ制度が二十世紀の今日いまもなおつづいており、これが廃止に全力をもつてたたかつている黒人労働者など、私たちの組合運動は本当に温室育ちの組合運動でしかないことを痛感し、恥しいかぎりです。

ルイ・サイヤン書記長が報告した行動綱領にたいし、イタリヤの代表としてノベラが相当の批判をし全面的賛成をしなかつたほかはいまのところ各国とも原案賛成が全部といつてよいくらいです。

ノベラの意見は、大会提案の綱領は世界労連参加の組合綱領としては、全世界すべての国々の労働者の綱領とはなりえないから停止すべきだ、という内容でした。

ではみなさんお元気で、また便りを出します。

十二月八日夜　モスクワにて

—読　書—

富岡　隆著

「資本家の思想攻撃」

資本家の思想攻撃のさまざま、社内報、肩たたき、色仕かけの具体例が実にたくさん出されている。これは著者が労組の講師として全国の職場をあるいている中で、きき

えた資本家の攻撃を系統的に整理し、その闘い方を教えるものだ。書き方も氏独特の調子がおもしろく、分裂工作や弾圧に直面しているものに、大きな励ましを与えてくれる、いわば〝資本家の思想攻撃に強くなる本〟。（新興出版社二五〇円）

新聞労連編

「産経新聞残酷物語」

最近の新聞の反動化の中で、日経連に身売りした産経が先兵の役割りを果たしている。このパンフは記事が上部からの圧力でねじまげられ、労働組合がど用化され、良心的な記者はつぎつぎに追われていつた反動化の過程をつづつたもの。その産経の中で配転に抗して闘う七人や新聞労連の仲間たちがペンに怒りをこめて日本の商業新聞の実態をえぐつている。（東京都中央区京橋二ノ一三田口ビル内新聞労連に五〇円カンパすれば送つてくれる）

生活科学調査会編

「主婦とは何か」

この一年「主婦労働は価値があるか」といういわゆる〝主婦論争〟が活発に行なわれたが、論争は主婦労働の価値論と婦人の解放論とが混線状態になり、必ずしも大きな実りをあげていない。戦後の主婦問題についての論点を整理しながら、論争の混線をときほぐして軌道にのせようというねらいで編集されたのがこの本。婦人運動家にとつてだけでなく、一般の婦人にも読んでもらいたい本です。

（医学書院出版KK一三〇円）